

2019年1月 第61号

三重県労働組合総連合
〒514-0015 三重県津市寿町7-50
みえ平和と労働会館
TEL 059-223-2615 FAX 059-223-4495
http://mieroren.labornet.jp/

みえ労連
zenroren

当面の日程 謹賀新年

1月20日(日) 13:30~みえ労連評議員会
17:15~2019年新春旗開き
みえ福祉医療生協地域支援センター「えがお」
2月 3日(日) 10:00~
伊賀・名張ユニオン団結もちつき
赤目ほんまもん広場

2019 新春座談会
障害ある人たちを働く仲間に



みえ労連の「障害ある人たちを働く仲間に」の取り組み

- ①毎年「障害者法定雇用率」の実態調査と懇談を続けています
②作業所で働く仲間の商品をメーカー・大会等の記念品に(総購入・販売額;約5百万円)。

「親亡きあとの子らのために」「柱1本持ち寄って」



熊澤まり子さん
(桑名市 支援施設くわのみ)
去年結成した「くわのみ職員労組」の委員長。上司のセクハラパワハラに真っ先に声をあげ、不当な解雇を撤回させ、理事会の民主化でより良い支援施設・職場を目指している。

若い人が楽しく働ける職場にしたい、ただそれだけだったんです。



祖父江昌弘さん
みえ自治労連書記長。
組合業務のかたわら得意の楽器で各施設訪問やイベント出演に多忙な日々を送る。

組合を結成し明るく職場に変えた。すばらしい一年でしたね。



弱き立場の人たちに目を向けていくのを見るのが楽しみです。商品の購入を呼び掛けられ、組合を作りました。購入してもらったから誉める訳ではないですが、みえ労連の立派なのは、労働組合として誰も気に留めない「障害者の法定雇用率」を10年前から調査し、関係者へ改善を働きかけていたことです。

近藤 四日市にある特別支援学校聖母の学園で教員をしています。進路を担当して10年を超えました。企業さんや事業所さんと障害者さんをつないでいく事が私達の仕事です。移行支援会議や進路懇談会、ケース会議...
熊澤 桑名にある障害者支援施設「くわのみ」でパートをしています。あまりにも怒れることがあつて、組合を結成しました。それは昨年6月、2人の職員が「明日からクビだ」と通告されたからです。それ以前からハラスメントの横行する職場でした。組合は2人でできると聞いていたのですが、呼びかけた結果、多くの人が組合に入り、不当な解雇を撤回させました。また「クビを通告した」パワハラセクハラの上を、理事会・評議員会・保護者会あげて「けん責処分」としてもらいました。



近藤正人さん
(四日市市 私立聖母の学園)
月間全労連2018年1月号に登場。「北勢地域のお祭りボランティア」、年2回の「福祉表の会」の活動。幅広い地域の作業所・支援施設・支援学校とのネットワークを築いている。

企業さんに理解してもらおうことが大事。そのためにジョブコーチの資格もとった。



絹田敬子さん
(津市 喜楽里)
社会福祉法人「喜楽里」で働く一方、きょうされん全国理事として、三重県ならびに全国の運動を牽引。みえ労連の自治体アンケート作成にも関わってもらっている。

交渉相手は理事会ではなく国。国の政治を変えるためにきょうされんの署名に協力

水井 津市にある工房T&Tで働いています。以前は四日市で就職情報誌の会社に勤めていたのですが、父が精神障害の子どものために作った作業所を引き継ぎました。精神障害は20歳前後で発症することが多いですが、そろそろ手が離れて楽ができるという時ですから、親は困惑します。私の父はそんな親たちの手助けになりたいと作業所を立ち上げました。当初は津市から300万円の補助金をもらって運営していましたが、平成16年に法人化して、国からお金が出るようになりました。
祖父江 くわのみ・理事長さんは「親亡きあとの子らのために」と、喜楽里・理事長さんは「柱一本持ち寄って」と、未知の領域を切り開いてこれ、今日があるのですね。
熊澤 組合ができる前、クビを通告された人が泣きながら訴えるのを、私も涙ながら聞きました。それまでに多くの職員が泣く泣く辞めていきました。若い人が楽しく働ける職場にしたい、私の思いはただそれだけです。組合はとっても恐ろしい集団と思っている若い職員が多かったですが、去年8月の組合結成大会には新理事長が来賓として参加してくれるまでになりました。新理事長は「親亡きあとの子らのために」と桑名市が応援し

みえ労連に期待します

長友 薫輝
(三重短期大学教授)



昨年、スポーツ界では、様々な競技でパワーハラスメントが表面化しました。

大学時代にアメリカンフットボールをやっていたこと

もあり、日大でのパワハラには特に心を痛めました。

選手たちが監督など権力を持つ者の言動によって、時には殴られて勝つ、といういわばブラックパワーに頼っていることが背景の1つにあると考えています。

このような力が生み出されてしまうのは、選手たちが主体的に取り組めていないからです。自分たちで動こう、変えていこうと他人から言われるのではなく自分たちでやればよい。スポーツ界では、パワハラやセクハラなどを起こした当事者は放逐されています。

社会福祉や介護、医療の現場は閉鎖的でハラスメントが起きやすい。スポーツ界と同じ構造です。ハラスメントが起きていても当事者が気づかない、声を出せない場合も少なくありません。利用者の人権を保障する担い手である職員の人権を保障するには、主体的に職員自身が動くこと。今こそ労働組合、みえ労連の出番です。

近藤 一般就労、一人暮らしでできそうな人の力になるうと思つてみえる絹

絹田 さきほど障害者の成長が楽しみと言いましたが、彼らは100%の力を出して働いているのです。挨拶もできなかつた子が、汗にまみれて揚げを揚げています。でも賃金は1万5千円。放つておくと倒れるまで働くので、コントロールすることも職員の仕事です。もう少しで一般就労できそうな人、もう少しでひとり暮らしできそうな人、そんな人の力になりたいと支援しています。

近藤 企業さんに理解してもらおう事は大切な事であり、大変な事です。東員町の土木会社に10回足を運び、やっと学園に来て頂いた。一人ひとりに似合った仕事を少し作り出して貰えたら働くチャ

水井 利用者は1万5千円の給料をもらうために3万円の利用料を払う(国からの補助はある)。これって変ですよね。働

祖父江 みなさんの努力にもかかわらず、障害者が働ける社会になつていないのが現実。この先どうしたらいいんでしょう。

田さんは素晴らしい。私は現在住み込みで働いている青年、グループホームで生活している青年と年2回温泉施設「ジャブ」で「裸の付き合い」をしています。アフターフォローが必要で、前者の方は5年以上フォローしています。後者の方も先輩からのアドバイスを守つてA型事業所に就労できました。

「雇つてやっている」という意識の「ところもある。彼らの働く権利を大事にする世の中であつてほしい。イージスアショアに3500億円もかけるなど防衛費を増やし、戦争

祖父江 国や自治体の障害者雇用率増しは、世間に対していきつかけになつた。法定雇用率は障害者の人権や働く権利に関わる問題です。



水井正幸さん (津市 工房T&T) 工房T&T理事長。端材や廃材を利用して、本物のエコ製品づくりを目指している。みえ労連はメーカーの記念品納入を依頼している。

働くことは全ての人の権利。そのため、防衛費削減で障害者と支援員へお金を回して。

ンスが生まれる。大切な事は障害の特性を理解し支えてくれる人を一人でも増やす事だと思ひます。

絹田 養護学校が特別支援学校に変わった頃は「卒業後のことは、私はちが知りません」という態度の先生がいたが、今の話を聞いて安心した。障害があつても働く力はある。挨拶をはじめ人として当たり前のことはきちんと教えられるべきだ。



対談のテーブルの上には「2019賀正」のケーキ(みえ労連役員からの差し入れ)

近藤 企業さんに理解してもらおう事は大切な事であり、大変な事です。東員町の土木会社に10回足を運び、やっと学園に来て頂いた。一人ひとりに似合った仕事を少し作り出して貰えたら働くチャ

彼らができないことをどうやったらできるようになるか、そういう合理的配慮が世の中には必要。10のうち1しかできなくても、この子はダメと決めつけず、一般就労をめつて必要な援助を続けること。作業所は一般就労に向かつて通過していくところだと私は思っている。

祖父江 国や自治体の障害者雇用率増しは、世間に対していきつかけになつた。法定雇用率は障害者の人権や働く権利に関わる問題です。

祖父江 そういう意味では障害者が働くと言うことを広く社会が考えていくチャンスですね。昨年末の国会では入管法が強行採決されましたが、日本でも働く以上、日本人も

外国人も権利は同等のはずです。それは障害があろうとなかろうと同じです。今日は「障害ある人を働く仲間」というテーマで、こもこも話つていただきました。みんなが笑顔で暮らせる世の中をめざし、今年もそれぞれ

の国会では入管法が強行採決されましたが、日本でも働く以上、日本人も

これまでにみえ労連に製品を提供いただいた作業所と、そこで扱っている商品の数々

あじさいの家 (いなべ市)



くわのみ デリカ工房 (桑名市)



のぞみの里 (桑名市)



四日市社協 共栄作業所 (四日市市)



聖母の家学園 (四日市市)



わかたけ萩の里 ラフカット (四日市市)



聖母の家 さくらの樹 (四日市市)



喜楽里 (津市)



工房T&T (津市)



いつもすてきな製品をありがとう

2019年を飛躍の年に

新年のごあいさつ

みえ労連議長 臼井照男

新年あけましておめでとうございます。

2018年、みえ労連は、県内5番目の松阪労連を結成、伊賀名張・東紀州・県都津市での地域労連結成の準備も進み、結成以来、過去最高の組織となりました。これもみなさんの日常普段の努力の成果であります。

2019年は、全ての仲間の参加で組織をさらに大きくし、「市民と野党の共闘」を強め、安倍内閣退陣の年にしましょう。



新年明けましておめでとうございます。

昨年、「障害者雇用促進法」が改定され、法定雇用率の引上げが実施されました。それに反し国や自治体では障害者の雇用数を水増ししていた事実が発覚《怠慢》。

労働組合の役割は、①労使交渉で職場環境整備について交渉、②労働協約・就業規則のチェック、③体制の整備について状況の確認・対応を行い、労働者が安心して働ける職場を作る使命があります。皆様、共に頑張りましょう。

三重県厚生連労働組合中央執行委員長 畑中剛喜

